

特集にあたって[†]

加藤 省吾^{*}

In recent years, interest on quality and safety in healthcare has been growing both in Japan and overseas. Various academic research institutes have been established in Japan as well. The Japanese Society for Quality Control has established and is active in such areas as the Study Group on the Comprehensive Quality of Healthcare Management and the Division of Healthcare Quality and Safety. As part of the results of the Study Group on the Comprehensive Quality of Healthcare Management, one of the Japanese Society for Quality Control's planning study groups, a book titled "the Seven Tools of TQM in Healthcare" was published in 2012. The study group has continued to conduct research and development since then. This special feature introduces the study group's recent efforts and the revision of the Seven Tools of TQM in Healthcare.

1. はじめに

近年、医療の質・安全への注目が高まっており、研究・開発は国内でも活発に進められている。本特集のテーマでもある「医療の TQM 七つ道具」^[1]という書籍が日本規格協会から出版されたのは 2012 年のことである。本著は、日本品質管理学会に設置された計画研究会である、医療経営の総合的「質」研究会 (<https://jsqc.org/medicalmanagement/>) の成果の一部をまとめたものであった。研究会ではその後も研究・開発が進められており、本特集は研究会における最近の活動の概要と、その中でも医療の TQM 七つ道具の改訂に関してまとめたものである。

少し話は逸れるが、筆者が大学の研究室に卒論配属されたのは 2002 年 4 月のことだった。工学部における化学系 3 学科の 1 つである化学システム工学科だったが、当時は「システム解析工学」を標榜されており、品質管理をやってきた研究室と知ったのは卒業した後だった。配属当時は、研究対象を製造業からサービス業に移行していく過渡期だったことが思い出される。

2. 医療の質・安全への関心の高まり

米国では、米国医療の質委員会による有名な著書「To Err is Human」^[2]が 2000 年に、その続編である「Crossing the Quality Chasm」^[3]が 2001 年に出版された。医療過誤における年間死亡者数が 4.4 万人～9.8 万人と推定されるという分析から始まり、いくつかの重要な提言がなされ、その後に大きな影響を与えた。提言のいくつかは実現されてきており、続報の出版が待たれる（もし続報があれば、教えていただきたい）。

国内においては、1999 年に横浜市大付属病院で発生した肺の手術と心臓の手術の患者を取り違えた事件がきっかけとなって、医療安全が社会的問題と認識されるようになった。これを契機に医療の質が問題とされるようになり、医療の質・安全の保証に対するニーズが高まった^[4]。前述の書籍は日本語にも翻訳され、「人は誰でも間違える：より安全な医療システムを目指して」^[5]が 2000 年に、「医療の質：谷間を越えて 21 世紀システムへ」^[6]が 2022 年に出版された。

国内における医療の質・安全への関心の高まりを受けて、複数の学術研究機関が設立され、研究・開発が進められている。日本品質管理学会では、医療経営の総合的「質」研究会が 2000 年 4 月、医療の質・安全部会 (<https://jsqc.org/iryo/>) が 2005 年 4 月に設立された。他の学会の一例としては、日本医療マネジメント学会 (<https://jhm.umin.jp>) が 1999 年 6 月に、

[†]令和 7 年 6 月 2 日 受付

^{*}電気通信大学

連絡先：〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1(勤務先)

E-Mail : katosh@uec.ac.jp

一般社団法人 医療の質・安全学会 (<https://jsqsh.jp>) が 2005 年 9 月に設立された。より固有技術に近い領域では、2004 年に設置された PCAPS 研究会を前身として、日本臨床知識学会 (<http://www.jaclinic.umin.jp>) が 2016 年 10 月に設立された。

3. 日本品質管理学会における研究・開発動向

3.1 医療経営の総合的「質」研究会

医療の総合的「質」研究会は 2000 年 4 月に設立され、医療界の質改善研究者と産業界の質改善関係者がほぼ半数ずつ委員を構成して活動している。

取り組みは多岐にわたるが、成果の一部として、前述の書籍「医療の TQM 七つ道具」^[1]が出版された。医療の TQM 七つ道具についてはその後も検討が進められており^[7]、今回の特集に至った。詳細は以降の特集記事を参照いただきたい。

3.2 医療の質・安全部会

医療の質・安全部会は、2005 年 12 月に、医療の質・安全のためのマネジメント技法の開発、医療における質マネジメントシステムの確立を目的として設立された。現在 3 つの研究会と、「医療の質マネジメント基礎講座」という研修会の運営を中心に活動している。

QMS-H 研究会 (<http://qms-h.org>) は、医療における「質中心経営管理システム」：Quality centered Management System for Healthcare (QMS-H) のモデル、導入・推進の方法論の確立を目的としており、成果の一部をまとめた書籍「組織で保証する医療の質 QMS アプローチ」^[8]が 2015 年に出版された。また、参加病院の取り組み、取り組みを経て整理された概念をまとめた書籍「慢性期医療の品質マネジメント：人生に伴走する医療の確立に向けて」^[9]が 2025 年に出版された。

4. 各テーマの概要

本特集は以下の 4 テーマから構成される。

- ・医療の TQM 七つ道具の改訂の経緯
- ・特性要因図の新規導入
- ・FMEA の改訂
- ・MIBM (まあ、いいか防止メソッド) の改訂

1 テーマ目の「医療の TQM 七つ道具の改訂の経緯」では、研究会における主要な活動の概要、その中でも医療の TQM 七つ道具の改訂に関して述べられている。このテーマの後半では、続く 3 テーマの概要がまとめられているので、そちらをご覧いただきたい。

本稿「特集にあたって」では、特集記事の各テーマの概要を解説する場合も多いが、特集記事の 1 テーマ目が上記のような構成のため、特集の背景情報を主として構成した。読者の参考になれば幸いである。

参考文献

- [1] 飯田修平、永井庸次編(2012)：「医療の TQM 七つ道具」、日本規格協会。
- [2] INSTITUTE OF MEDICINE(2000)：*To Err is Human*, NATIONAL ACADEMY PRESS.
- [3] Committee on Quality of Health Care in America INSTITUTE OF MEDICINE(2001)：*Crossing the Quality Chasm*, NATIONAL ACADEMY PRESS.
- [4] 飯塚悦功、水流聡子(2010)：「医療品質経営 患者中心医療の意義と方法論(医療経営士テキスト)」, 日本医療企画。
- [5] 米国医療の質委員会(2000)：「人は誰でも間違える：より安全な医療システムを目指して」、日本評論社。
- [6] 米国医療の質委員会(2002)：「医療の質：谷間を越えて 21 世紀システムへ」、日本評論社。
- [7] 飯田修平ら(2022)：「医療の TQM 七つ道具の再検討」, 「日本品質管理学会第 52 回年次大会研究発表要旨集」, 17-20.
- [8] 飯塚悦功、棟近雅彦、水流聡子 監修, QMS-H 研究会出版委員会 執筆(2015)：「組織で保証する医療の質 QMS アプローチ」, 学研メディカル秀潤社。
- [9] 日本品質管理学会監修, 進藤晃 著(2025)：「慢性期医療の品質マネジメント：人生に伴走する医療の確立に向けて(JSQC 選書 38)」, 日本規格協会, 2025.